

保全候補地カルテ

A 「入口付近竹林」 疎林型

エリア箇所



現況写真



毎年実施する管理

良好な竹林形成を目的に下刈り・低木除去、竹林の利用を目的にマダケの間伐を毎年実施する。

長期的な管理

良好な林床保全を目的に清掃・落ち葉かきを3年ごとに行う。

目標とする樹林	比較的短期的な強い管理により疎らに樹木が生育する明るい樹林
自然環境の特徴 利用・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> マダケが優占する群落で、スギが混交する。 森林管理が不十分で、細いマダケが密生し、林床は常緑低木等が被り折れたマダケも多く環境は悪化している。
保全管理の方針	<ul style="list-style-type: none"> 密生した竹林は生物多様性が低いため間伐を行う。 伐採後は、数年間で更新できるよう、適度な管理を行う。 常緑低木樹が増えると暗い林床となるため、適度に除伐を行う。 竹林管理を兼ねた自然体験活動等のイベントの場として活用する。

作業内容	市	活動 団体	作業頻 度	実施月												
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
マダケの間伐	○	○	1回/年	■	■											
下刈り・低木除去		△	2回/年						■	■			■			
清掃・落ち葉かき		○	1回/3年	■												
その他自然体験	○	○	1回/年				■	■								

注意すべき植物

草本層：ツタウルシ、キツタ 低木層：ヤツデ、アオキ、ムクノキ

期待する動植物



センリョウ



ヒカゲワラビ

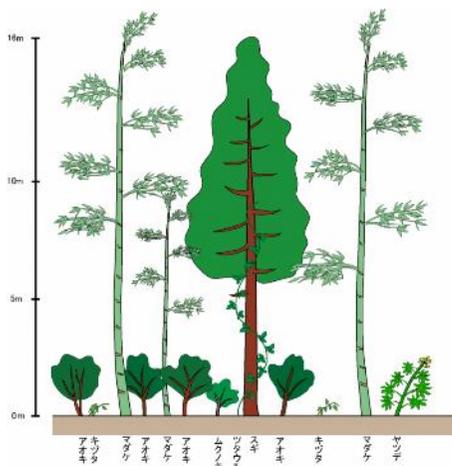


フタリシズカ

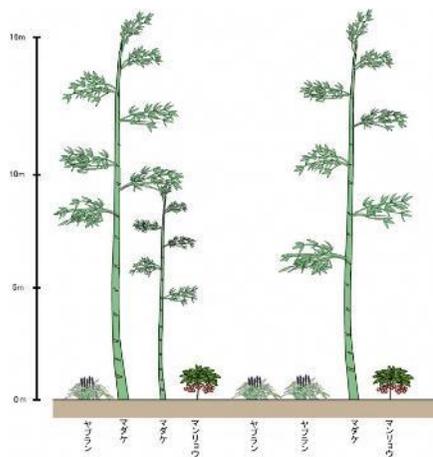


フジガンゾウ

現状の樹林



目標とする樹林



B 「休耕田東側斜面林」 草本林床型

エリア箇所



現況写真



毎年実施する管理

安全面・防災面を目的に不良枝・下枝枝払い、不良木伐採を随時実施する。
良好な雑木林の林床保全、自然観察会への利用を目的に、観察路沿いを中心としてアズマネザサ、常緑樹の稚樹等を除去する。

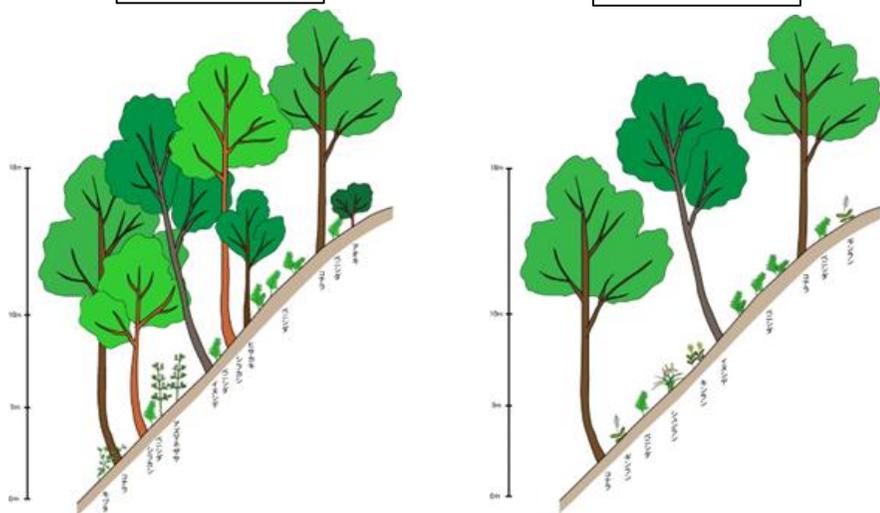
長期的な管理

常緑広葉樹は樹木の込み具合の調節を目的に10年間隔程度で択伐を実施する。

目標とする樹林	適度な管理により林床植物が生育し林内がすっきりした落葉広葉樹林
自然環境の特徴 利用・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コナラが優占する群落であるもののシラカシ等の常緑広葉樹が高被度で生育しており、常緑樹への遷移が見込まれる。 ・急傾斜地で自然観察路上に太い枝が張り出している。 ・希少種の林床植物が生育し、自然観察会で利用される。
保全管理の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・コナラ林に常緑広葉樹の侵入が著しく、景観維持のためこれらの伐採を進める。 ・安全確保のため、自然観察路上に被り、支障となっているシラカシ、コナラの横枝は枝払いする。 ・希少種保護のため、林縁のアズマネザサ等の刈払いを目指す。 ・自然観察会の場として活用する。

現状の樹林

目標とする樹林



作業内容	市	活動 団体	作業頻 度	実施月													
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
常緑広葉樹の間伐	○		1回/10年														
不良枝枝払い・不良木伐採	○		随時														
刈払い・低木除去		△	2回/年														
自然観察会	○	○	随時														

注意すべき植物

草本層：ベニシダ、キツタ 低木層：アオキ、アズマネザサ

期待する動植物



ヤマクリ



フデリンドウ



ギンラン



シュンラン

C 「めじろんば杉林」 草本林床型

エリア箇所



現況写真



毎年実施する管理

良好な雑木林の林床保全、自然観察会への利用を目的に刈払い・低木除去を毎年行う。

長期的な管理

良好な樹林の形成を目的に生育不良なスギを伐採し、必要に応じて落葉広葉樹を育成し植栽する。つる切りを2年ごと、清掃・落ち葉かきを3年ごとに行う。

目標とする樹林	適度な管理により林床植物が生育し林内がすっきりした落葉広葉樹林
自然環境の特徴 利用・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生育不良のスギが優占する群落で、マダケが混交する。 ・林内は暗く、林床はすっきりして低木の侵入は少ない。 ・自然観察路の分岐点で、利用者の目につきやすい土地である。
保全管理の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・生育不良なスギ植林で林内は暗いが、植物希少種が比較的多いため、スギ植林から落葉広葉樹林に林種転換を図り、多様な生物が生息できる空間を目指す。 ・自然観察の場として活用する。 ・明るい林の良好な景観を目指す。

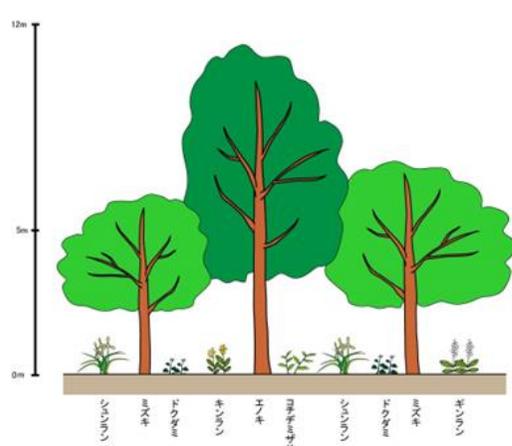
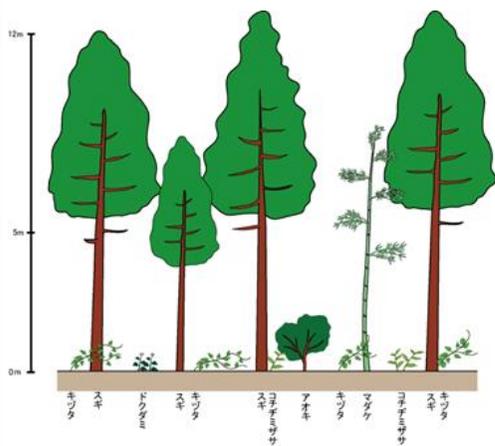
作業内容	市	活動団体	作業頻度	実施月												
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
スギの伐採	○	○	1回/10年	■	■											
落葉広葉樹植栽		○	1回/10年	■	■											
刈払い・低木除去		△	2回/年						■	■			■			
つる切り		○	1回/2年						■	■						
清掃、落ち葉かき		○	1回/3年	■												
自然観察会	○	○	随時	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

注意すべき植物

草本層：キツタ、ヤツデ、ムクノキ 低木層：アオキ、シラカシ

現状の樹林

目標とする樹林



期待する動植物



ヤマユリ



エビネ



イチリンソウ



ニリンソウ

D 「下ノ畑」 草本林床型

エリア箇所



現況写真



毎年実施する管理

良好な雑木林の林床保全、自然観察会への利用を目的に下刈り・刈払い・低木除去を毎年行う。

長期的な管理

樹木の込み具合の調節を目的に10~20年間隔程度で高木の間伐を実施し、自然観察に資する樹木を育成する。つる切りを2年ごと、清掃・落ち葉かきを3年ごとに行う。

目標とする樹林	適度な管理により林床植物が生育し林内がすっきりした落葉広葉樹林
自然環境の特徴利用・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・イヌシデが優占する群落で、一定の林床管理はされているが、アズマネザサが侵入して全面的に被う。 ・林内の見通しが良く平地であるため、自然観察会で利用される。
保全管理の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・アズマネザサの侵入が見られるため定期的に刈払いを行う。 ・適度に管理された落葉広葉樹林を目指し、短伐期で択伐を行い、イヌシデ林から自然観察に資する樹木への転換を図る。 ・自然観察会、樹林管理の自然体験活動等の場として活用する。

作業内容	市	活動団体	作業頻度	実施月													
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
高木の間伐	○		1回														
刈払い・下刈り・低木除去		△	2回														
つる切り		○	1回														
落ち葉かき		○	1回														
自然観察会	○	○	随時														

注意すべき植物

草本層：フジ、アズマネザサ、ツタウルシ 低木層：アオキ、シロダモ

期待する動植物



キンラン



ジュウニトエ

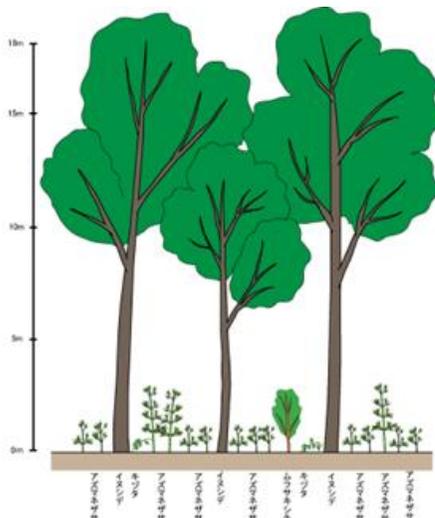


トモエソウ

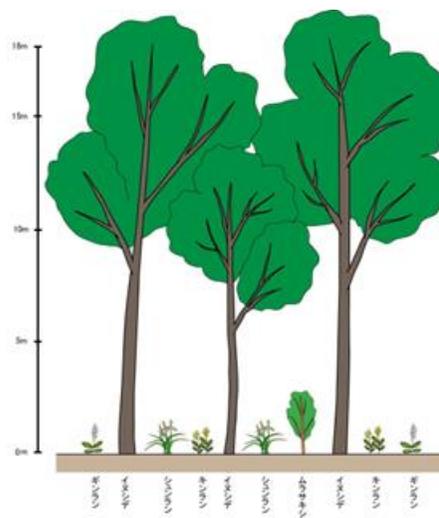


ササバギンラン

現状の樹林



目標とする樹林



E 「休耕田C向かい樹林地」 草本林床型

エリア箇所



現況写真



毎年実施する管理

良好な雑木林の林床保全、自然観察会への利用を目的に下刈り・刈払い・低木除去を毎年行う。

長期的な管理

良好な樹林の形成を目的にスギ・マダケは伐採し、クヌギの実生の育成を目指す。つる切りを2年ごと、清掃・落ち葉かきを3年ごとに行う。

目標とする樹林	適度な管理により林床植物が生育し林内がすっきりした落葉広葉樹林
自然環境の特徴 利用・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> クヌギが優占する群落で、周囲はスギが混交し、マダケも侵入し始めている。 アズマネザサ等の下草が繁茂している。 クヌギの実生の供給源となりうる。
保全管理の方針	<ul style="list-style-type: none"> クヌギ林の定期的な下刈り・低木除去による林床管理を行い、クヌギの実生の生育を促す。 アズマネザサの侵入が見られるため定期的に刈払いを行う。 背後のスギや侵入し始めたマダケは伐採する。 自然観察会、樹林管理の自然体験活動等の場として活用する。

作業内容	市	活動 団体	作業頻 度	実施月													
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
スギ・マダケ伐採	○		1回/10年														
刈払い・下刈り・低木除去		△	2回/年														
つる切り		○	1回/2年														
清掃・落ち葉かき		○	1回/3年														
自然観察会	○	○	随時														

注意すべき植物

草本層：ツタウルシ、キツタ、ススキ 低木層：アズマネザサ、クス

期待する動植物



フタリスズカ



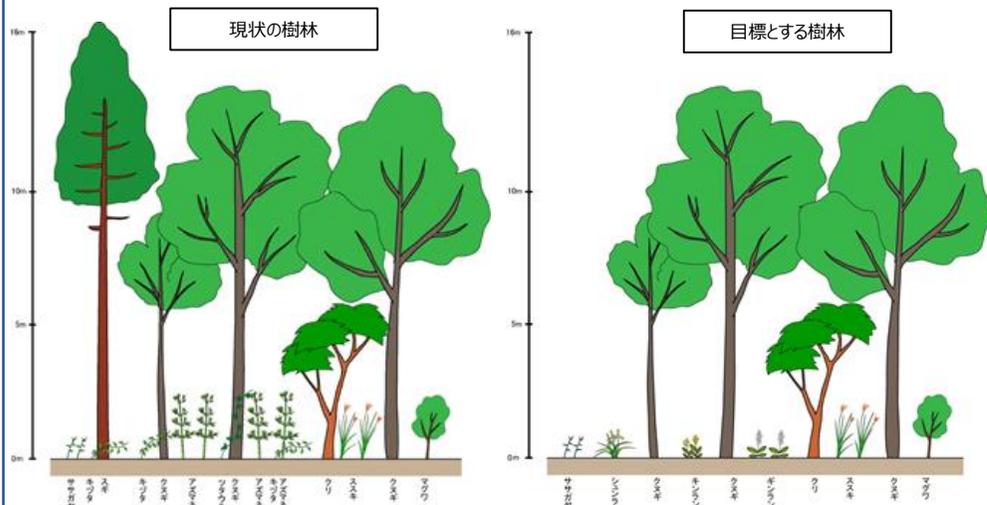
イヌザクラ



キンラン



ギンラン



F 「ハンノキ林」 疎林型

エリア箇所



現況写真



毎年実施する管理

ハンノキ林の更新、自然観察会への利用を目的に下刈り・水路の草刈り・泥上げを毎年行う。

長期的な管理

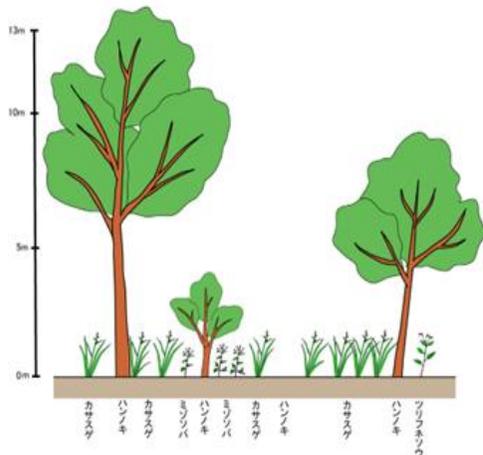
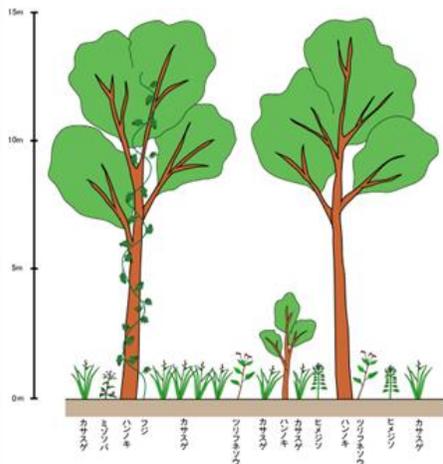
樹木の込み具合の調節を目的に10~20年間隔程度で高木の間伐を実施する。

目標とする樹林	比較的短期的な強い管理により疎らに樹木が生育する明るい樹林
自然環境の特徴 利用・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・湿地に成立するハンノキが優占する群落で、林内は明るく、抽水植物が多く生育する。 ・林床を被うカサスゲのため、ハンノキの実生は生育困難となっている。
保全管理の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しのよい良好な景観を維持するため、ハンノキの萌芽更新や実生の生育を促すよう、下刈りや近い将来高木の択伐を行う。 ・多様な植物種を維持するため、カサスゲ等の下刈りを目指す。 ・水路は草刈り、泥上げを行う。

作業内容	市	活動 団体	作業頻 度	実施月													
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
高木の間伐	○		1回/10年	■	■												
下刈り・水路草刈り・泥上げ		△	2回/年					■	■				■				
つる切り		○	1回/2年						■	■							
清掃・落ち葉かき		○	1回/3年	■													

現状の樹林

目標とする樹林



注意すべき植物

草本層：ヨシ、カサスゲ、セイタカアワダチソウ 低木層：ツタウルシ、フジ

期待する動植物



ツリフネソウ



サワオグルマ



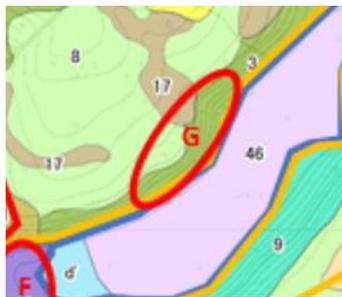
アギナシ



タコノアシ

G 「鴻巣斜面林」 多層林型

エリア箇所



現況写真



毎年実施する管理

安全面・防災面を目的に不良枝・不良木・下枝伐採を毎年行う。

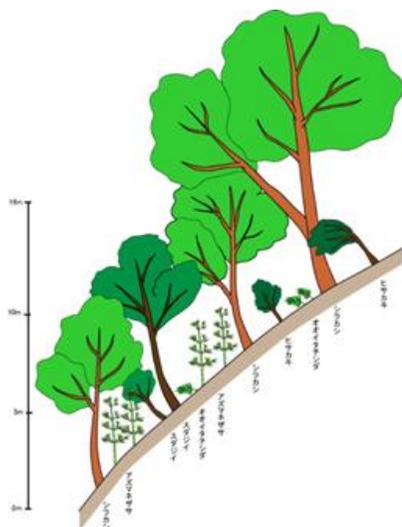
長期的な管理

林床の環境改善を目的にアズマネザサにより林床が暗いので、刈払いを3年間隔程度で実施する。

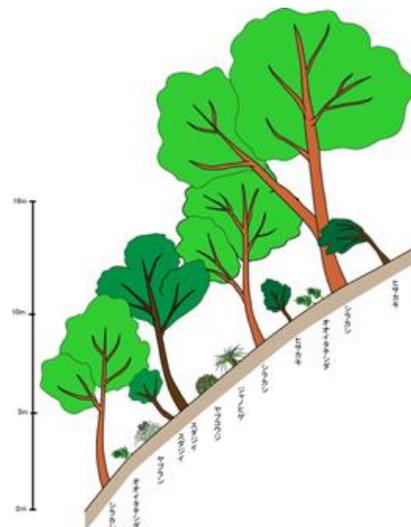
目標とする樹林	管理の頻度が低く森林の階層構造が発達し水源涵養機能が高い森林
自然環境の特徴 利用・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・シラカシが優占する群落でアズマネザサの侵入が著しく、林床は希少植物がみられるものの生育困難となっている。 ・管理が行われていない急傾斜地で、谷部に太い枝が張り出している。 ・一般利用者の立ち入りは制限されている。
保全管理の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・林床では希少種が多く確認されているものの、アズマネザサの繁茂により生育環境が悪化しているため定期的なアズマネザサの刈払いを目指す。 ・谷津田に被り、支障となっているシラカシ、コナラの横枝は枝払いし、安全確保を図る。

作業内容	市	活動 団体	作業頻 度	実施月													
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
アズマネザサ等刈払い	○	○	1回/3年														
不良枝枝払い・不良木伐採	○		随時														

現状の樹林



目標とする樹林



注意すべき植物

草本層：アオキ、キツタ

低木層：アズマネザサ

期待する動植物



フジカンゾウ



シュラン



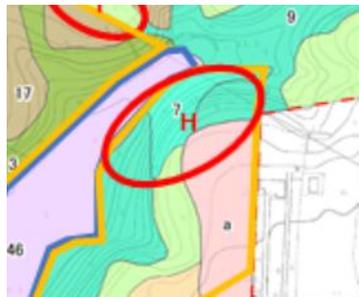
ナルコユリ



ジュウニヒトエ

H 「水源地斜面林」 多層林型

エリア箇所



現況写真



毎年実施する管理

良好な雑木林の林床保全、希少植物の保護を目的に刈払い・低木除去を毎年行う。

長期的な管理

植生変化阻止を目的に常緑広葉樹の間伐を10年ごとに行う。

目標とする樹林	管理の頻度が低く森林の階層構造が発達し水源涵養機能が高い森林
自然環境の特徴 利用・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・イヌシデが優占する群落で、階層構造が見られ、植物希少種も多く、ここでしか見られない植物もある。 ・谷津田の最奥の源流部として、水源涵養機能を担っている。 ・一般利用者の立ち入りは制限されている。
保全管理の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・植物希少種が多いもののアズマネザサが繁茂し林床植物の成長を阻害しているため、継続的なアズマネザサ等の刈払いを行う。 ・現状の森林の階層構造を維持するため、長いサイクルの伐採を行う。

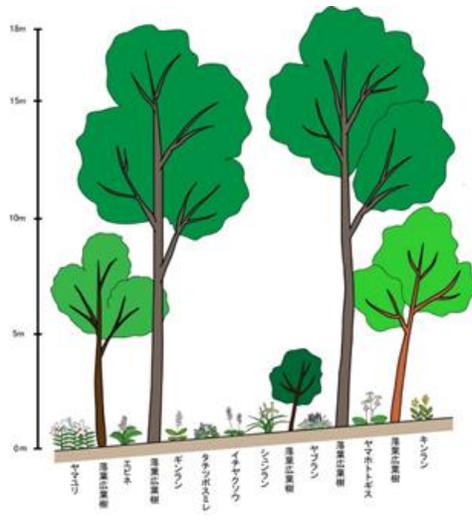
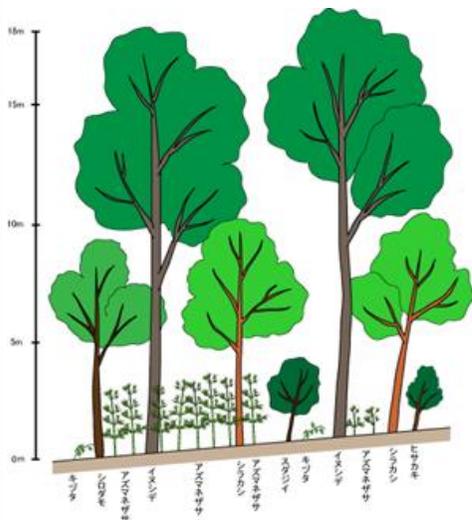
作業内容	市	活動 団体	作業頻 度	実施月													
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
主に常緑広葉樹の間伐	○		1回/10年	■	■												
刈払い・低木除去	○		1回/年	■	■	■											

注意すべき植物

草本層：キツタ、フジ 低木層：アオキ、アズマネザサ

現状の樹林

目標とする樹林



期待する動植物



キツネノカミソリ



カノツメソウ



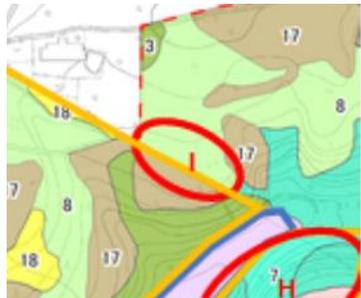
サラシナショウマ



ツクバトリカブト

I 「高圧線下」 複層林型

エリア箇所



現況写真



毎年実施する管理

特に無し。

長期的な管理

電力事業者による定期的な伐採を行う。明るい林内に育成する希少植物の育成を目的に、必要に応じて常緑広葉樹の稚樹の除去を行う。マダケや外来種であるハリエンジュの生育に注意する。

目標とする樹林	管理の頻度が低く森林の階層構造が発達し、水源涵養機能が高い森林
自然環境の特徴利用・管理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・高圧線下のため伐採により現在は高木の存在が認められない。 ・伐採直後でバイオニア植物のクサギやアカメガシワが生育し、クイヤコブシ等の落葉広葉樹二次林を構成する種も確認できる。 ・明るい林床に生育する希少種が見られる。 ・一般利用者の立ち入りはない。
保全管理の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・現状バイオニア植物が優占しているが、今後、多層林型の落葉広葉樹へ遷移していくと思われる。明るい林内に生育する希少種の育成も期待されるため、常緑広葉樹の生育に注視しながら、電力事業者による定期的な伐採による管理に任せる。

作業内容	市	活動団体	作業頻度	実施月													
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
刈払い・低木除去	○		随時														

注意すべき植物

草本層：セイトカアワダチソウ、ニワウルシ 低木層：ハリエンジュ、マダケ

期待する動植物



ヤマユリ



ジュウニヒトエ

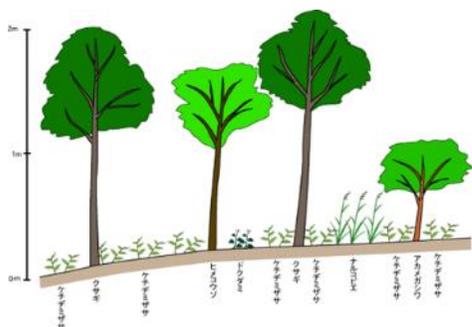


キンラン



ギンラン

現状の樹林



目標とする樹林

